



Oracle® Hyperion Calculation Manager

リリース 11.1.2.3.000

New Features

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

新機能

このリリースのインストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関連する新機能の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme の新機能に関する項を参照してください。

Oracle Hyperion Calculation Manager の新機能は、次の項を参照してください。

Apple 社のモバイル・デバイスで動作保証されるようになったドキュメント

リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、MOBI ファイル(以前から使用可能)および EPUB ファイルの2つのモバイル・フォーマットでも提供されるようになりました。EPUB ドキュメント・ファイルは、Apple 社のすべてのモバイル・デバイス(iPad、iPhone および iPod Touch)でサポートされています。EPUB ファイルは多くのモバイル・デバイスでサポートされています。ただし、動作保証されているのは、Apple 社のモバイル・デバイスのみです。その他のデバイスは、今後動作保証されます。リマインダー-この文言を 11.1.2.3 の新機能ガイドまたは Readme の新機能に関する項に含めてください。

以前のリリースで導入された機能

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 からのアップグレードの場合、累積機能概要ツールを使用して、これらのリリース間で追加された新機能のリストを確認します。このツールは、現在の製品、現在のリリース・バージョン、およびターゲット実装のリリース・バージョンを識別します。1回のクリックで、現在のリリースとターゲット・リリースとの間に開発された製品機能の概要のカスタマイズされたセットがツールによってただちに生成されます。このツールはこちらにあります:<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1

Calculation Manager 全体での文字列のグローバルな検索および置換

システム・ビューから、Calculation Manager を使用する製品(Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning、Oracle Essbase など)内、アプリケーション内、プラン、データベースまたは計算タイプ内、ルールセット内、ルール内、テンプレート内、式コンポーネント内およびスクリプト・コンポーネント内でグローバルな検索および置換を実行できます。

注：「基本プロパティを含める」を選択した場合、Calculation Manager では、オブジェクトの名前、説明、コメントおよびキャプションを検索します。Calculation Manager では、デフォルトで、オブジェクト内で使用する式、スクリプト、その他のコンポーネント、変数などを検索します。

検索する場合、Calculation Manager は、検索を起動したシステム・ビューのノードの各オブジェクトを検索します。(個々のオブジェクトで検索する場合、オブジェクトをオープンしてから、「編集」および「検索」を選択する必要があります。)たとえば、Planning アプリケーション内のプラン・タイプの「ルール」ノードを右クリックし、「検索」を選択すると、Calculation Manager は、「ルール」ノード内のすべてのビジネス・ルールで入力したテキスト文字列を検索します。

Calculation Manager で検索対象のテキストが見つかった場合、検索したオブジェクトのテキストおよびスコープを含むオブジェクトのリストを示す「検索」タブが開きます。たとえば、Planning アプリケーション内で、プラン・タイプの「スクリプト」ノードでテキストを検索する場合、Calculation Manager では、テキストが見つかったオブジェクトの数と、オブジェクトが存在するアプリケーション名およびプラン・タイプが表示されます。

検出されたテキスト文字列のうち、選択したものを置換することも、すべてを置換することもできます。選択したものを置換する場合、Calculation Manager は、「検索」タブで選択したもののみを置換します。すべてを置換する場合、Calculation Manager は、「検索」タブのテキスト文字列のすべてのインスタンスを同時に置換します。

注：「すべて置換」は、「次を含む」または「次と一致」オプションを使用してテキスト文字列を検索した場合にのみ使用できます。「次で始まる」または「次で終わる」オプションを使用した場合は使用できません。

テキスト文字列によるオブジェクトのフィルタリング

リスト・ビューで、「フィルタ」ダイアログを使用し、指定する条件に従ってビューに表示されるオブジェクトをフィルタ処理できます。テキスト文字列によってオブジェクトをフィルタ処理できます。入力したテキスト文字列で始まる、終わる、含む、または一致するテキスト文字列を検索できます。また、大文字/小文字を区別して検索することも、区別せずに検索することもできます。

データ範囲コンポーネントでのソート(Financial Management アプリケーションのみ)

Financial Management データ範囲コンポーネントで、次元によってソートできます。ソート基準の次元を選択した後、昇順(A から Z)または降順(Z から A)で次元をソートできます。

スクリプト・モードで編集集中のシステム・キーワードの抑制

以前のリリースでは、スクリプト・モードでビジネス・ルールを編集すると、キーワードを使用してグラフィカル・モードに変換するために、Calculation Manager によって複数行のシステム生成キーワードがコメント行として表示されていました。このリリースでは、スクリプトが読みやすくなるよう「コメントの非表示」を選択してこれらのキーワードを抑制することも、コメントの表示を選択してキーワードを表示することもできます。

注：「コメントの非表示」を選択した場合、Calculation Manager によって生成されたコメントのみが表示されません。自分または他のユーザーがスクリプトに入力したコメントは表示されます。

ビジネス・ルール・スクリプトのパフォーマンスまたは最適化の問題の分析(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション・ユーザーのみ)

ビジネス・ルールを設計する際、スクリプト診断を実行できます。スクリプト診断を実行するには、ビジネス・ルール内の任意のコンポーネントをクリックし、「エラーおよび警告」タブをクリックしてスクリプト診断を実行するボタンをクリックします。これを行うと、Calculation Manager では、ビジネス・ルール・スクリプトを分析し、次のいずれかを表示します：

- 検証が行われない場合は、検証エラーが表示されます。各検証エラーを右クリックすると、「スクリプトの表示」または「デザイナの表示」タブにエラーのソースを表示できます。

「スクリプトに表示」を選択すると、ルールがスクリプト・モードで表示され、エラーを含む行が強調表示されます。(グラフィカル・ルールの場合、ルールはスクリプト・モードで編集できません。)ルールを編集するには、「デザイナ」を選択します。

「デザイナに表示」を選択すると、エラーを含むコンポーネントが強調表示されます。エラーを修正してスクリプト診断を再実行するか、別のエラーをクリックして修正します。

- 検証が行われた場合は、「要約」および「警告」が表示されます。要約および警告の各アイテムをクリックすると、「スクリプトの表示」または「デザイナの表示」タブにスクリプトのソースを表示できます。

「スクリプトに表示」を選択すると、ルールがスクリプト・モードで表示され、エラーを含む行が強調表示されます。(グラフィカル・ルールの場合、ルールはスクリプト・モードで編集できません。)ルールを編集するには、「デザイナー」を選択します。

「デザイナーに表示」を選択すると、エラーを含むコンポーネントが強調表示されます。エラーを修正してスクリプト診断を再実行するか、別のエラーをクリックして修正します。

注： 警告はベスト・プラクティスに基づいていますが、スクリプトでの必要性に応じて、警告を無視できます。

- 「要約」では、計算におけるデータ・セルの数、データのパス・スルーの数、割当ての不適合の数、不正に使用された次元の数などの統計がリストされます。
- 「警告」では、すべての疎次元がセル参照に指定されるかどうか、セルは疎メンバーを参照するかどうか、割当てでは異なるデータ・ブロックの疎次元メンバーを参照するかどうかなどの情報をリストします。これらは、それぞれパフォーマンスに影響を及ぼすことがあります。

異なるスコープ間での変数のコピー

Calculation Manager では異なるスコープ間で変数をコピーできます。アプリケーション・タイプに応じて、あるアプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、ルールセットまたはルールから同じアプリケーション・タイプの別のアプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、ルールセットまたはルールに変数をコピーできます。たとえば、Planning プラン・タイプ変数は、Planning ビジネス・ルールにコピーできますが、Oracle Hyperion Financial Management ビジネス・ルールにコピーできません。

コピーする変数がすでに存在する(つまり、同じ名前の変数がコピー先の場所すでに存在する)場合、コピーした変数に新しい名前を付けるか、コピーをスキップするか、コピーした変数の内容で既存の変数の内容を上書きできます。

メンバー・ブロック・コンポーネント内からの変数の選択

Essbase および Planning メンバー・ブロック・コンポーネントで、変数またはメンバーをメンバー・ブロックに挿入できるようになりました。

2つのビジネス・ルールのスクリプトの比較

2つのビジネス・ルールのスクリプトを表示して、それぞれがどのように違うか、変更した箇所、またはグラフィカル・ビジネス・ルールのスクリプトを確認できます。Calculation Manager のシステム・ビューで、2つのビジネス・ルールのスクリプトをウィンドウで左右に並べて表示できるようになりました。

2つの計算スクリプトのコンポーネントが、「スクリプトの比較」ウィンドウという新しいウィンドウで左右に並んで表示されます。スクリプトの比較ウィンドウに次の情報が表示されます:

- どちらかのスクリプトに追加が行われた場合、その行の背景が薄いグレーで表示されます。
- どちらかのスクリプトで削除が行われた場合、その行の背景が濃いグレーで表示されます。
- いずれかのスクリプトが変更された場合は、その行の背景が黄色で表示されます。
- 最初の列にはスクリプトの行番号が表示されます。
- 2番目の列には、次の3種類の文字の1つが表示されます:
 - *は、左列に表示されるスクリプトの行が、右列に表示されるスクリプトの行と異なることを示します
 - +は、左列に表示されているスクリプトと比較すると、右列に表示されているスクリプトに新しい行が追加されていることを示します
 - -は、左列に表示されているスクリプトと比較すると、右列に表示されているスクリプトから行が削除されていることを示します
- 3番目と4番目の列には2つのスクリプトが表示されます。スクリプト内の異なっている行の1つを強調表示すると、下部ペインで個別のセクションにスクリプトが表示されます。左側のスクリプトが最初のセクションに表示され、右側のスクリプトがその下に表示されます。

注: 2つを超えるビジネス・ルールを一度に比較することはできません。また、ビジネス・ルールのバージョンを比較することはできません(たとえば、ビジネス・ルールの直前のバージョンと、保存したばかりのバージョンを比較できません)。

ダブルクリックによるルールセット内からのルールのオープン

以前のリリースでは、ルールセット・デザイナーでビジネス・ルールセットを編集した場合、ルールセット内のルールを開くには、ルールを右クリックして「開く」を選択していました。このリリースでは、ルールセット・デザイナーでルールセットを操作する場合、ビジネス・ルールをダブルクリックして開くことができます。

変数セレクトタに表示する変数の選択

Calculation Manager では複数のコンポーネントから変数セレクトタを開くことができます。デフォルトでは、変数セレクトタは使用可能なすべての変数を表示します。一部の変数は、変数セレクトタを開いたコンテキストと無関係の場合があります。(たとえば、メンバー・ブロック・コンポーネントで変数セレクトタを開くと、数値の変数が表示されますが、メンバー・ブロック・コンポーネントで使用することはできません。)このリリースの Calculation Manager では、変数セレクトタを開いたコンテキストに基づいて、関連する変数のみがデフォルトで表示されます。「すべ

ての変数の表示」を選択して、コンテキストに関係なく、変数セレクトアですべての変数を表示することもできます。

「フィルタ」ダイアログでの選択内容のリセット

リスト・ビューで、「フィルタ」ダイアログを使用し、指定する条件に従って Calculation Manager オブジェクトをフィルタ処理できます。「フィルタ」ダイアログには、「フィルタ・オプション」と「詳細設定オプション」の2つのタブが含まれています。このリリースでは、各タブで選択を行った後、「リセット」をクリックして一方のタブをデフォルト値でリセットし、他方のタブの選択をそのままにすることができます。

条件ビルダー内からの Planning スマート・リストの選択

このリリースでは、条件ビルダーを使用して Planning ビジネス・ルールの条件を作成する場合、変数、メンバーまたは関数に加えてスマート・リストを条件の式で使用できます。

設計時プロンプト内のテキストの検索および置換

テンプレートの設計時プロンプトで、テキスト文字列を検索および置換できます。単語全体の検索、単語の一部の検索、大文字/小文字を区別した検索、大文字/小文字を区別しない検索を行えます。設計時プロンプト・グリッドのすべての行が検索されるよう、選択した行から同じ行までで検索をラップできます。

検索する場合、Calculation Manager は、設計時プロンプトの名前とテキスト・フィールドを、設計時プロンプト・グリッドで選択した行、または行が選択されていない場合は最初の行から検索します。Calculation Manager で一致が検出された場合、設計時プロンプト・グリッドで一致が強調表示されます。一致が見つからない場合、メッセージが表示されます。

検出されたテキスト文字列のうちの1つを置換することも、すべてを置換することもできます。1つを置換する場合、Calculation Manager は一度に1つのテキスト文字列のインスタンスを検索して置換します。すべてを置換する場合、Calculation Manager は、テキスト文字列のすべてのインスタンスを同時に検索し、置換します。

配置ビューからのビジネス・ルールの印刷

システム・ビューから印刷する以外に、配置ビューからビジネス・ルールを印刷できます。ビジネス・ルールのプロパティ、フロー・チャートおよびコンポーネントの詳細を印刷できます。たとえば、配賦費用の式コンポーネントが含まれるビジネス・ルールを印刷すると、式の構文、式を構成する関数および変数、ルールのフロー・チャートの手順要約(図ではない)、およびルールのプロパティが出力されます。また、ビジネス・ルールで使用されているテンプレートおよびコンポーネントを印刷できます。

Essbase ビジネス・ルールでの実行時プロンプトのサポート

Essbase ビジネス・ルールの実行時プロンプト変数を作成できます。実行時プロンプト変数によって、ユーザーは、Calculation Manager または Oracle Essbase Administration Services でビジネス・ルールを起動する際に変数の値を入力できます。すべての値が検証された後、ビジネス・ルールが起動します。

注： 実行時プロンプト変数にデフォルト値が含まれている場合、ルールの検証時、デフォルトの実行時プロンプト値で検証されます。

次の Essbase 変数の型の実行時プロンプトを作成できます。

- 数値
- 整数
- 文字列
- 次元間
- 次元
- メンバー
- メンバー
- パーセント
- メンバー範囲

検証、デバッグおよび分析時の実行時プロンプトへの値の入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)

ルールを検証または起動する際、Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ルールのルールで使用される実行時プロンプト変数の値を入力するよう求められようになりました。変数にデフォルト値がある場合はその値が検証に使用されますが、ルールを起動する際、ルール内で使用されるすべての実行時プロンプト変数に値を入力するよう求められます。検証時、「ルールに値を適用」オプションを選択して実行時プロンプトに入力した値を適用できます。起動時、これらの値は、実行時プロンプトに使用または変更できるよう表示されます。

次元名を使用した変数の作成

次元タイプではなく次元名を使用して、メンバー、メンバー(複数)、次元間、メンバー範囲、および次元型の変数を作成できます。グローバル・レベルでは、次元名を入力できます。アプリケーション・レベルでは、アプリケーションのすべての次元名をリストしたドロップダウンがあります。

変数デザイナーでの検索

変数デザイナーの検索機能で、変数の名前を入力することによって、変数を検索できます。変数のテキスト文字列を検索することもできます。(たとえば、検索に基本プロパティを含める場合、デフォルト値を含む文字列変数を検索できます。)

デフォルトでは、Calculation Manager では、変数のデフォルト値を使用して検索します。検索に変数の基本プロパティを含める場合、Calculation Manager では、デフォルト値と、変数の名前、タイプ、説明およびグループの両方を使用して検索を行います。

注： Calculation Manager では、変数ナビゲータで選択したタイプ(グローバル、アプリケーション、計算、プランまたはデータベース、ビジネス・ルール)内でのみ、変数を検索します。(たとえば、プラン・タイプを選択した場合、Calculation Manager は、そのプラン・タイプ内でのみ検索します。)すべての変数タイプ内で変数を検索するには、各タイプ内で個別に検索を実行する必要があります。タイプを選択しない場合、検索機能は無効になります。

スクリプト内のテンプレート・マクロ・コールの編集

スクリプト・モードでビジネス・ルールを編集していて、ビジネス・ルールにテンプレートが含まれている場合、ビジネス・ルール・スクリプト内からテンプレートを編集できるようになりました。テンプレートを編集するには、スクリプトのテンプレート行を選択し、「テンプレートの編集」アイコンをクリックします。これによって、テンプレートを変更できるテンプレート・ウィザードが起動されます。

Planning および Essbase の 2 つの新しいシステム・テンプレートのサポート

このリリースには、Planning および Essbase の 2 つの新しいシステム・テンプレートが含まれています。割当て - 単純除外テンプレートを Planning または Essbase ビジネス・ルールで使用し、ある範囲のメンバーを割り当てたり、範囲内の別のメンバーを割当てから除外できます。

複数通貨を使用せずに作成された Planning アプリケーション、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションで、「通貨換算」テンプレートを使用できます。「通貨換算」テンプレートを使用すると、Planning アプリケーションのシステム・タイプの勘定科目(または選択した勘定科目)、および Essbase アプリケーションのユーザー定義属性を使用して、勘定科目の値をレポート通貨に換算します。

割当て - 単純除外テンプレートでは、次のことができます。

- 割当て範囲のすべてのメンバーに割り当てるか、割当て範囲から除外するメンバーを定義する
- 割当て範囲のすべてのメンバーに均等に割り当てるか、割当て範囲の各メンバーのドライバ/基準を使用して割り当てる

- データを丸めるかどうか、丸める場合はその丸め方を指定する
- 「デバッグ・ウィザード・オン」を選択し、テンプレート内の設計時プロンプト用に入力した内容を示すコメントをスクリプトに表示する

通貨換算テンプレート・ウィザードでは、次のことができます。

- 通貨に対して作成されたカスタム次元を選択する
- 通貨次元内のレポート通貨メンバーを選択する
- レポート通貨に対する為替レートを選択する

Workforce Planning、Capital Asset Planning、Public Sector Budgeting、Project Financial Planning プラン・タイプのメンバーの動的な作成および削除

Workforce Planning、Capital Asset Planning、Public Sector Budgeting、または Project Financial Planning プラン・タイプが有効な Planning アプリケーションを使用する場合、ビジネス・ルールの起動時にメンバーを動的に作成したり、削除できます。これを行い、デフォルトの動的な親メンバーを定義する場合、Oracle Hyperion Planning で親の子メンバーはルールの起動前に自動的に作成され、ルールの起動後に自動的に削除されます。

Calculation Manager での Essbase ビジネス・ルールのコマンド・ライン・ランチャの使用

コマンド・ライン・ランチャ・ユーティリティは、%EPM_ORACLE_HOME%\common\calcmgr\11.1.2.0\lib の calcmgrCmdLine.jar ファイル内にあります。ユーティリティを実行するコンピュータに Java ランタイム・バイナリをインストールする必要があります。ユーティリティを実行するには、ユーティリティを実行するコンピュータに jar ファイルをコピーし、次のコマンドを使用します。

```
java -jar calcmgrCmdLine.jar <Calc Server URL> <USER> <PASSWORD> <APPLICATION NAME> <DATABASE NAME> <RULE NAME> [,<VARIABLE NAME>=<VARIABLE VALUE>]
```

- コマンド・ライン・ランチャは、一度に1つのルールのみを実行できます。
- ルール内で参照されていない変数名が渡された場合は無視され、その旨のメッセージは表示されません。
- 変数がルールで参照されているのに引数として渡されていない場合、生成されたルール・スクリプトは、検証値または変数のデフォルト値(指定されている場合)を使用します。
- 起動が成功すると、エラー・レベル 0 が返されます。起動が成功しなかった場合、エラー・レベル 1 が返されます。

コマンド・ライン・ランチャの例および引数

コマンド・ライン・ランチャの例を次に示します。

```
java -jar calcmgrCmdLine.jar http://myBox:19000 admin password Sample Basic myRule  
var1=\"Jan\" var2=1000 var3=\" Budget->\" 001\" ->FY10”
```

- <Calc Server URL> - プロトコル(http、https など)およびホスト名とポート
- <USER> <PWD> - ユーザー名とパスワード
- <APPLICATION NAME> - ルールが作成される Essbase アプリケーション
- <DATABASE NAME> - ルールが作成される Oracle Essbase データベース(アプリケーション内)
- <RULE NAME> - ビジネス・ルールの名前
- <VARIABLE NAME> - ビジネス・ルールで置き換える実行時プロンプト変数名
- <VARIABLE VALUE> - 実行時プロンプト変数の値

暗号化されていないモードの例

```
java -jar calcmgrCmdLine.jar <CalcServer URL> <USER NAME> <PWD> <Application Name>  
<Database Name> <Rule Name> <variable name=value>,<variable name=value>
```

```
java -jar calcmgrCmdLine.jar http://myBox:19000 admin password Sample Basic myRule  
var1="Jan" var2=1000
```

暗号化モードの例

暗号化パスワードをコマンド・ライン・ランチャへの引数として渡す必要がある場合、まずパスワードの暗号化されたトークンを作成します。次のようにデフォルトの鍵を使用してパスワードを暗号化できます。

```
java -jar calcmgrCmdLine.jar -encrypt password
```

復号化のデフォルト鍵を使用した暗号化モードの例

デフォルトの鍵を使用してパスワードを復号化する場合、次のようにして復号化します。

```
java -jar calcmgrCmdLine.jar -decrypt http://myBox:19000 admin g//  
F19AB2qrFN9R5m141CPgcLYmjmLyiIxx2CXz7hxbheZe6HDUvjYkQuW2l4Oer Sample Basic myRule  
var1="Jan" var2=1000
```

指定された暗号化の鍵を使用した暗号化モードの例

指定した鍵を使用してパスワードを暗号化する場合、次のようにして暗号化します。

```
java -jar calcmgrCmdLine.jar -encrypt -key AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA password
```

指定された復号化の鍵を使用した暗号化モードの例

```
java -jar clacmgrcmdLine.jar -key AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA http://myBox:19000 admin  
g//F19AB2qrFN9R5m141CPgcLYmjmLyiIxx2CXz7hxbheZe6HDUVjYkQuW2l4Oer Sample Basic myRule  
var1="Jan" var2=1000
```

Windows で bat ファイルを使用したコマンド・ライン・ランチャの実行

次の例は、Windows で bat ファイルを使用してコマンド・ライン・ランチャを実行する例です。

```
@echo off  
java -jar calcmgrCmdLine.jar http://myBox:19000 admin password Sample Basic myRule  
var1=\"Jan\" var2=1000 var3= \" Budget->\" 001\" ->FY10\"  
IF %ERRORLEVEL%==0 goto success  
echo there is error  
goto end  
:success  
echo success  
:end
```

Calculation Manager での新しいカスタム定義関数の使用

このリリースの Oracle Hyperion Calculation Manager にはコンポーネントで使用できる新しいカスタム定義関数がいくつか含まれています。これらの関数のリストを次に示します。

- @CalcMgrExecuteMaxLEnScript - 暗号化された MaxL スクリプトを起動します
Javaクラス: com.hyperion.calcmgr.common.cdf.MaxLFunctions
仕様: @CalcMgrExecuteMaxLEnScript(privateKey, maxlScripts, arguments, asynchronous)
- @CalcMgrExecuteEncryptMaxLFile - 暗号化された MaxL ファイルを起動します
Javaクラス: com.hyperion.calcmgr.common.cdf.MaxLFunctions
仕様: @CalcMgrExecuteEnMaxLFile(privateKey, maxlFileName, arguments, asynchronous)
- CalcMgrIntegerToString - 整数を文字列に変換します

Javaクラス: `com.hyperion.calcmgr.common.cdf.MaxLFunctions`

仕様: `@CalcMgrIntegerToString(integerNumber)`

- `@CalcMgrDoubleToString` - 倍精度浮動小数点を文字列に変換します

Javaクラス: `com.hyperion.calcmgr.common.cdf.MaxLFunctions`

仕様: `@CalcMgrDoubleToString(doubleNumber)`

- `@CalcMgrStringsToString` - 文字列配列をデリミタを使用する文字列に変換します

Javaクラス: `com.hyperion.calcmgr.common.cdf.MaxLFunctions`

仕様: `@CalcMgrStringsToString(strings, seperator)`

暗号化を使用した MaxL スクリプトまたはファイルの記述

`essmsh -gk` コマンドは、コンソールで秘密鍵と公開鍵を生成します。

- 暗号化の公開鍵: 25159,850102129
- 復号化の秘密鍵: 240764119,850102129

▶ 暗号化を使用した MaxL スクリプトまたはファイルを記述するには、次のようにします:

- 1 公開鍵 `essmsh -ep admin 25159,850102129` を使用してユーザー `admin` のトークンを生成するには、`906388712099924604712352658511` のようなトークンを取得する場合があります。

公開鍵 `essmsh -ep password 25159,850102129` を使用してユーザー `admin` のトークンを生成するには、`0893542980829559883146306518502837293210` のようなトークンを取得する場合があります。

- 2 次のログインで MaxL スクリプトを記述します:

```
login $key $1 $key $2 on localhost;
```

- 3 MaxL: `essmsh -D fileName privateKey userKey passwordKey` を実行します

```
essmsh -D C:/Temp/maxlcmd1.mxls 240764119,850102129
906388712099924604712352658511
0893542980829559883146306518502837293210
```

- 4 ユーザー名とパスワードを使用して MaxL ファイルを暗号化するには、次のコマンドを使用します。このコマンドによって、フォルダに暗号化されたファイルが作成されます。これをカスタム定義関数で使用します。

```
essmsh -E "<full path of MaxL file name>" <public key>
```

計算スクリプト例

計算スクリプトの例を次に示します。

```
FIX ("Sales", "100-10", "New York", "Actual")
  "Jan" (
@CalcMgrExecuteEncryptMaxLFile("2115028571,2505324337", "C:/Temp/
exportdata.xmls", @List("906388712099924604712352658511", "0893542980829559883146306518
502837293210"),
"true");
  )
ENDFIX
```

```
RUNJAVA com.hyperion.calcmgr.common.cdf.MaxLFunctions "false" "-D" "C:/Temp/
maxlcmd1.xmls" "2115028571,2505324337" "906388712099924604712352658511"
"0893542980829559883146306518502837293210" "sample" "var1" "var1_value";
```

著作権情報

Calculation Manager New Features, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。